

ギメ美術館クリシュナ・リブー・コレクションの日本織物 ーその研究と保存ー

オーレリー・サミュエル

ギメ美術館は、クリシュナ・リブー(1926-2000)の功績により世界でも有数の織物コレクションを所蔵している。1926年10月12日、クリシュナ・ロイはインドのコルコタで生まれた。1913年にノーベル文学賞を受賞したラビンドラナート・タゴールは、彼女の曾祖父母の兄弟にあたる。ニューヨークでアンリ・カルティエ＝ブレッソンの紹介によりジャン・リブーと出会い結婚、1950年代から自身の出身地であるベンガル地方のバルチャリ・サリーを購入してコレクションを始めた。1979年にはアジア織物調査研究協会(AEDTA)を設立し、その中で4000点にも及ぶ見事な織物コレクションを構築した。彼女はまた膨大な文献資料を収集し、研究チームを構成して、正真正銘の学術調査・研究センターを作り上げた。1964年、当時のギメ美術館館長ジャンヌ・オーボワイエは、ポール・ペリオ調査団が中央アジアより持ち帰った織物の調査をリブーに依頼、以降彼女はギメ美術館と緊密な連携をとることになる。彼女が死後コレクションをギメ美術館に遺贈することを決めたのは、したがって至極自然な成り行きであった。1990年、まず最初に150点の織物が寄贈され、2003年には彼女の遺言によりコレクションのほぼ全体がギメ美術館に移管された。クリシュナ・リブー・コレクションは、アジア大陸全土より集められた織物の豊かさを実証するものだが、中でもインドの織物には最も比重が置かれその数は1700点にのぼり、日本から来たものも600点を数える。

クリシュナ・リブーからの寄贈を受け、ギメ

美術館は大きな空白を埋めることとなった。それまで美術館には、ポール・ペリオが持ち帰ったものを除けばごくわずかの織物を有しているに過ぎなかった。1945年にルーヴル美術館からギメ美術館に移管されたアジアのコレクションには織物はほとんど含まれておらず、美術館創設者エミール・ギメも、数度にわたるアジア旅行から織物は持ち帰ってはいなかったのである。しかし、19世紀からフランス人コレクター、あるいはフランスに根付いたコレクターの多くが日本の織物に情熱を傾けていた。こうした情熱は、彼らが欲する品物を提供する専門店の増加と共に高まっていった。日本美術を扱う商人も次第に増え、中でもパリ万博の通訳として1878年にパリにやってきた林忠正(1853-1906)と、コレクターであり美術商も営むサミュエル・ビング(1838-1905)の二人が重要な役割を果たすことになる。

1883年に出版された重要な書物、『日本美術』(*L'Art Japonais*)の著者であり、美術品コレクターでもあったルイ・ゴンズ(1846-1921)は、「十枚の着物を所有しており、どれも非常に素晴らしく、全て18世紀のものであった」¹。

作家であり著名な日本美術コレクターであったエドモン・ド・ゴンクール(1822-1896)は、オートゥイユにある自邸の部屋を日本の美術品で飾っていた。彼が1881年にパリで出版した『芸術家の家』(*La Maison d'un artiste*)には、壁が「袱紗、掛け物など、18世紀の図柄で覆われて」いることが記されている(*La Maison*, I, p.72)²。リブー・コレクションにも僅かの袱紗が含まれており(1983

年に購入されたMA 9468-AEDTA 1447の袱紗など)、それらは19世紀のコレクターたちが捜し求めた袱紗の精髓を示すものである。

コレクションにはヨーロッパの装飾美術に非常に大きな影響を与えた型紙も存在する。図案の普及にはまた、当時収集され、P.ヴェルヌイユ著『日本の織物』(*Etoffes Japonaises tissées et brochées*)を始めとする様々な書物の中に複製された生地見本も貢献した。ルーヴル美術館に日本美術を導入し、1893年にアジア美術部門を創設したガストン・ミジヨン、ヴェルヌイユの著書に序文を寄せ、その中で日本人のイマジネーション、特に紋織物をはじめとした高度な技術を高く評価している。クリシュナ・リプーはこれらの生地見本を数多く購入していた。リプー・コレクションにはまた、彼女が日本の織物に関心を寄せ始めた頃のパリでまだ出回っていた、日本美術コレクターの先駆けらが集めた膨大な美術品も寄与している。

クリシュナ・リプーは中国織物の調査に没頭しながらも、年月とともに日本とも精神的な繋がりを深めていった。彼女は特に正倉院に保管されている織物を調査するために、十数回来日している³。リプー・コレクションの中の日本の織物は、日本の織りと染めの技術を余すところなく伝えるものである。彼女が収集した600点の織物には、ヨーロッパ随一を誇る100点にものぼる袷、非常に美しい小袖や絹の着物、沖縄の芭蕉布や苧麻(からむし)でつくられた衣、アイヌ民族の衣装、また日本における藍染の使用を物語る木綿衣の非常に美しいコレクションが見られる。クリシュナ・リプーは全ての分野、全ての時代を網羅しようとはせず好んで江戸時代の物に重点を置いたが、極めて上質な作品のみを対象にした。「コレクションの衣装は、江戸の裕福な町人、大名、高僧、武士、農民、漁民、百姓、(さらには)北海道のアイヌ民族や沖縄の住人など、非常に幅広い層の人々が身に着けていたものである」⁴。

彼女はAEDTAの活動とそのコレクションを

知ってもらうために、出版と展覧会を活発に展開していった。その中で1991年から1992年にかけて開催された「東洋の袷」展は、まずリヨン織物美術館で開幕し、次いギメ美術館、リスボン・グルベンキアン財団、最後に京都・相国寺承天閣美術館(1994年10月23日～12月4日)へと巡回した。

クリシュナ・リプーは袷に対する関心を次のように語っている。「それ(関心)は織物の輝きや美しさのみならず、そこに使われた技術の複雑さ、構成の厳密さからも生ずる。(…)(袷の構成は)袷を製作する僧侶の属する(多様な儀礼をもつ)各宗派によって異なるのである」⁵。コレクションはこうした様々な種類を幅広く示してくれる。多様な袷の中で、MA 11630 - AEDTA 3788のような七条袷、すなわち「鬱多羅僧(うったらそう)」は寺内での儀式に使われ、MA 5783-AEDTA 1488のような九から二十五条袷、すなわち「僧伽梨(そうぎゃり)」は厳粛な祭儀の際に着用された。

コレクションにはまた、図像学的、美学的、技術的に非常に価値が高く、他に類のない作品もある。山伏のものであったと考えられる麻の鈴懸(MA 11849 - AEDTA 4015)はその一つである。また縞地金襴の能装束(MA 11492-AEDTA 3642)は、コレクションが有する日本の作品の中でも傑作の一つに数えられる。

技術的、人間的、また財政的にもAEDTAを存続させることは難しいことを認識していたクリシュナ・リプーは、早いうちからギメ美術館に自分のコレクションを寄贈することを決めていた。彼女は、集めた作品が織物を専門とする美術館よりも、一般の美術館に入れられることを望んでいたのである。ある織物を生み出した文明を歴史的に理解するには、その織物の調査が重要であるとの見方に立った研究を続け、自らの仕事に持続性を与えていった。彼女はコレクションが分散しないこと、そして何より研究者や一般に公開され続けることを望んだのである。

AEDTAの書庫と資料の全てはギメ美術館に移管され、以降閲覧が可能となり、研究者らにとって主要な資料庫となってきた。クリシュナ・リブー・コレクションは多くの点で異彩を放つコレクションである。集められた作品の美しさのみならず、歴史の幅広さ、技術の多様さが、このコレクションを比類なき織物研究の拠点としているのである。

注

- 1 Gonse, François, « Louis Gonse et le Japon », in *Gazette des Beaux-Arts*, Paris, février1992, p.84.
- 2 Koyama-Richard, Brigitte, *Japon Rêvé, Edmond de Goncourt et Hayashi Tadamasa*, Hermann, Paris, 2001, p.27.
- 3 Vollmer, John E., « A Focus on Krishnâ Riboud, Founder and President, AEDTA, Paris », in *Orientations*, vol.28 n° 4, April 1997, p.43
- 4 Riboud, Krishnâ, Avant-propos, in Alan Kennedy and Sachiko Hosoda, , *Traditional costumes and textiles of Japan*, A.E.D.T.A, Paris, 2000
- 5 Riboud, Krishnâ, Avant-propos, *Manteau de nuages, kesa japonais XVIIIe-XIXe siècles*, Musée Guimet, Editions de la Réunion des musées nationaux, Paris, 1991, p.6.



Illustration 1: Louis Gonse auction catalogue, Drouot du 5-11th May 1924, Paris, picture by Aurélie Samuel



Illustration 2: Arts de l'Extrême-Orient. Japanese and Chinese artefacts. Goncourt auction catalogue, 12-13th March 1897, Drouot, Paris, picture by Aurélie Samuel



Illustration 3: Fukusa displaying three cranes in flight, silk, gold-wrapped threads, XIXth century, MA 9468-AEDTA 1447, Musée Guimet, picture by Aurélie Samuel

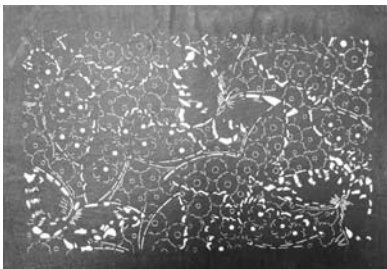


Illustration 4 : Katagami Stencil, MA 11991-AEDTA 330 BJ, Musée Guimet, picture by Aurélie Samuel

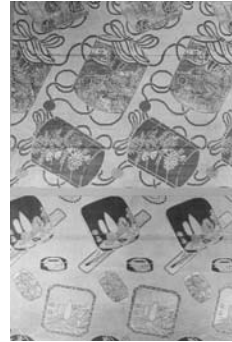


Illustration 5 : #32 coloured plate, MP. Verneuil, Etoffes Japonaises, Paris, 1905, picture by Aurélie Samuel



Illustration 6: on the left : Fern leaves, detail from #30 coloured plate, MP. Verneuil, Etoffes Japonaises, Paris, 1905 ; on the right : fragment from the Riboud collection, brocade silk, MA 9905-AEDTA 1927, Musée Guimet, picture by Aurélie Samuel



Illustration 7: Mme Riboud with, from right to left : the headpriest from Kōfuku-ji temple and Reverend Sunei Tagawa, in her Paris home, 1996, for the opening of « Nara, Trésor bouddhique du Japon ancien », at the Grand Palais

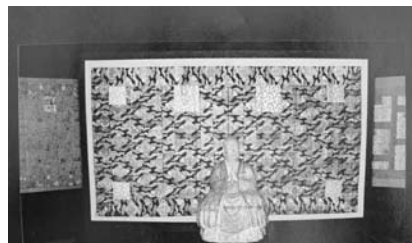


Illustration 8 : Picture from the exhibition Manteau de nuages at the Musée Guimet, 1992



Illustration 9: Mme Riboud, with, from left to right : Professor Hubert Durt, Master Raitei Arima, October 22nd, 1994

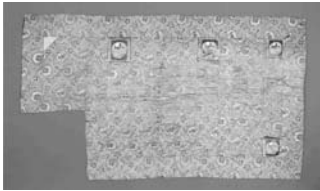


Illustration 10 : 7 jō kesa , XIXth century, silk, MA 8647-AEDTA 512, Musée Guimet, RMN, picture by Thierry Olivier

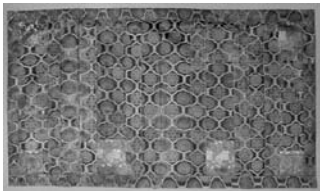


Illustration 11 ab : column construction kesa, designed for export, Japan, XVIIIth century cloth; assembled in the XXth century, silk lampas , silver paper strips, MA 5763-AEDTA 1699, Musée Guimet, RMN, picture by Matthieu Ravaux



Illustration 12: 25 column construction kesa, dyed ramie (asa), Japan, XIX-XXth century, MA 5782-AEDTA 2421, Musée Guimet, RMN, picture by Matthieu Ravaux

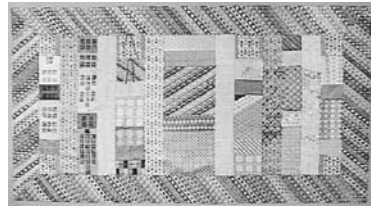


Illustration 13: 7 column construction kesa , late XIXth century, silk gauze, embroidery, gold-wrapped threads, gilded paper strips, MA 5769-AEDTA 1722, Musée Guimet, RMN, picture by Matthieu Ravaux

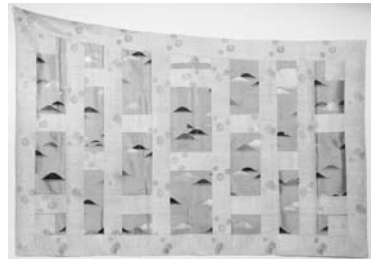


Illustration 14: 7 column construction kesa, brocaded tabby-weave and lampas weave, silk, silver-wrapped threads, XIXth century, MA 5771-AEDTA 2345, Musée Guimet, RMN, picture by Matthieu Ravaux



Illustration 15: 5 column construction kesa, late XIXth century-early XXth century, silk lampas, MA 5791-AEDTA 1054, Musée Guimet, RMN, picture by Matthieu Ravaux

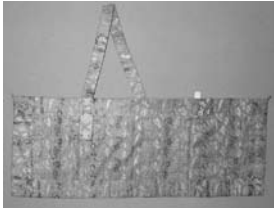


Illustration 16: 5 *jô* kesa, silk, silver paper strips, estimated from the XIXth century, MA 5789-AEDTA 1421, Musée Guimet, RMN, picture by Matthieu Ravaux



Illustration 20: Ainu dress, Northern Japan, cotton, appliqué-work, embroidery, elm-bark fiber (*ohyô*), second half of the XIXth century, MA 10197-AEDTA 2239, acquired in 1984, Musée Guimet, picture by Thierry Olivier



Illustration 17: 7 column construction kesa, silk satin, silver and gold paper strips, China, XVIIIth century (fabric); assembly: Japan, circa 1877 (donation), MA 5764-AEDTA 1418, Musée Guimet, picture by Matthieu Ravaux



Illustration 21: Maiwai, fisherman's ceremonial costume, plain-weave stencil resist-dyeing (*katazome*), late XIXth or early XXth century, acquired in 1996, MA 11614-AEDTA 3767, Musée Guimet, picture by Thierry Olivier



Illustration 18: Uchikake- type kosode, woman's outer robe, resist-dyed silk damas, embroidery, painting, padding, XIXe siècle, acquired in 1986, MA 5759-AEDTA 2632, Musée Guimet, picture by Thierry Olivier



Illustration 22: Child's Robe, resist-dyed and painted plain-weave, embroidery, padding. Meiji period, MA 5758-AEDTA 1758, Musée Guimet, picture by Thierry Olivier



Illustration 19: Okinawa woman's summer dress, cotton cloth, banana fiber (*bashô*), double-ikat, Meiji period, MA 10102-AEDTA 2130, acquired 1984, Musée Guimet, picture by Thierry Olivier



Illustration 23: Jimbaori, cotton, silk, wool, gilded paper strips, ivory buttons, late Edo period-early Meiji period, acquired in 1999, MA 11827-AEDTA 3991, Musée Guimet, picture by Thierry Olivier



Illustration 24: Coat known as the *suzukake* of the *shugenja*, plain weave, hemp, XIXth century, MA 11849-AEDTA 4015, Musée Guimet, picture by Thierry Olivier



Illustration 25: Nô theater costume, *chôken*-type, brocaded silk gauze, gilded paper strips, XIXth century, acquired in 1995, MA 11492-AEDTA 3642, Musée Guimet, picture by Thierry Olivier



Illustration 26: Picture: reorganization of the Musée Guimet storage, 2003, picture by Hélène Vassal



Illustration 27: Picture: *kesa* stockpiling, picture by Hélène Vassal



Illustration 28: Picture of the « Lumières de soie » exhibition, Musée Guimet, picture by Thierry Olivier



Illustration 29: Nô costume, brocaded silk, gilded threads, late XVIIIth century, MA 12228, Musée Guimet, picture by Thierry Olivier



Illustration 30: Krishnâ Riboud in her garden (Copyright Marc Riboud)